

酒精綿パッケージ製品変更による経済効果と標準化

松永 智寛、中島 康弘、因幡 美津子、高松 純、藤堂 景茂
特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院 資材部

1. 目的

院内での感染は、医療従事者の手指を介した直接的な感染や、医療器具等を媒介した間接的な感染で発生する。特に後者の場合は、使用状況・製品の見直しにより改善出来るケースも少なくない。今回、当院での注射・採血部位の皮膚の消毒に使用している酒精綿について、衛生面・作業率の効果率・コスト面から検討し、2004年9月に単包酒精綿の全面採用を行った。その結果、衛生面での向上と使用量の削減、作成作業時間の短縮に繋がったので報告する。

2. 方法及び経過

2002年以前までの当院での酒精綿作成は、各病棟に中材から払出された滅菌済の万能瓶に1日使用する量のカット綿を小分けし、エタノール液を注ぎ使用していたが、衛生面での向上や手技の標準化を目的に、2003年1月にバルク包装(160枚入り)の酒精綿を採用した。しかし、衛生面での向上は計れたものの、詰替え作業や、容器の洗浄・消毒があり、使用期限が過ぎた酒精綿は破棄していた為、作業時間とコスト面での効率化に課題が残った。それらの改善を再度計り、更に“医療の質や安全性”を向上される目的で院内感染防止委員会やリンクナースと連携し、2004年9月に単包酒精綿の全面採用を行った。

3. 結果検証

使用量の多い病棟をモニター病棟(ICU:計51床、一般病棟:計152床)と設定し、アンケート調査(対象看護師数:148名)を行った。回収率は、93%で単包化によるメリットとして衛生面:41%・利便性:29%・経済面:26%が確認され、バルク包装時での未使用廃棄が45%あり、更に単包酒精綿に変更する事においての使用枚数の削減が84%確認された。バルク包装使用時では、経済面での削減はできず逆に20%増額したが、単包包装使用時には、一部のゴミの問題を除き、安全性・経済面・物流での全ての面で改善された。特に経済面では、年間購入価ベースで約51%に削減され、当初との比較から全病棟使用金額は、約64%に削減された。

4. 考察・まとめ

現場での酒精綿の衛生面・利便性の効率が計られた。単包包装の単価自体は、バルク包装に比べて高価であり、また消費に関しても高価であると考えられたが、予想に反し単包綿での使用量は減少、コストも削減された。原因は、以前は1回の使用時に3~4枚塊で使用した事や、勤務時間帯に割当てられていた酒精綿を期限が過ぎると廃棄していたが、単包化によりそれが無くなった為と思われる。今回、経済効果だけでなく使用する医療従事者の手技の標準化が可能となり、患者様に提供する医療の質の向上に繋がった。今後も現場や院内感染防止委員会と連携して感染対策や医療費削減などの病院経営に貢献して行きたい。